

中学校給食の完全実施について



食育推進キャラクター
ボンチャーヌ（盆地犬）

令和2年1月25日

秦野市教育委員会 教育部 学校教育課

全国の「完全給食」実施状況（平成30年5月1日現在 文部科学省公表）

公立小学校の完全給食実施状況

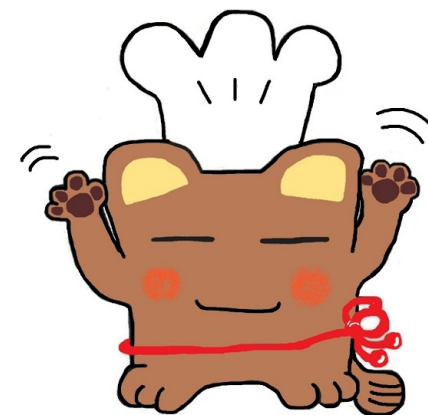
	都道府県名	学校総数	実施校数	実施率
計	—	19,338校	19,194校	99.3%
1	埼玉県	809校	809校	100.0%
1	福島県	436校	436校	100.0%
1	岡山県	383校	383校	100.0%
1	ほか8府県が同率1位（100%実施）			
21	神奈川県	854校	851校	99.6%
45	高知県	190校	183校	96.3%
46	青森県	286校	273校	95.5%
47	岩手県	313校	290校	92.7%

公立中学校の完全給食実施状況

	都道府県名	学校総数	実施校数	実施率
計	—	9,336校	8,702校	93.2%
1	千葉県	377校	377校	100.0%
1	福島県	219校	219校	100.0%
3	埼玉県	414校	412校	99.5%
4	岐阜県	178校	177校	99.4%
45	佐賀県	85校	62校	72.9%
46	滋賀県	98校	64校	65.3%
47	神奈川県	411校	183校	44.5%

秦野市立中学校給食基本方針（平成30年6月22日 教育委員会会議決定）

- 1 保護者・学校及び行政が連携して、完全給食を早期に実現します。
- 2 安全・安心でおいしい、生徒が喜ぶ学校給食を提供します。
- 3 成長期にふさわしい、栄養バランスを考えた学校給食を提供します。
- 4 学校給食を通じた食育を推進します。
- 5 地産地消の視点を生かした学校給食を推進します。



「秦野市中学校完全給食推進会議」の検討

1 会議の構成 12名

（保護者代表3名、公募市民2名、学識経験者2名、
校長・教頭の代表4名、栄養教諭の代表1名）

2 会議開催数 9回（うち、先進地等の視察6回）

3 結果報告 平成30年10月31日



学校給食の提供方式

提供方式	特 徴	課 題
自校方式	学校内に単独調理場を建設し、自校の給食を調理して提供する方式	校舎内には必要な調理場面積の確保が困難で、グラウンドに建設する場合は授業や部活動への影響が大きい
親子方式	既存の小学校調理場を活用し、給食を調理・提供する小学校を「親」、提供を受ける中学校を「子」に見立てた共同調理場方式	小学校調理場で大規模な増改築工事が必要となり、給食を一定期間休止する必要がある。また、小学校調理場に過大な負担が生じる。
センター方式	市内に学校給食専用の共同調理場（学校給食センター）を建設し、そこで調理した給食を各校に配送する方式	調理場の規模に合わせた建設用地を確保する必要がある。また、センターから各中学校に温かいまま、安全に配送するための工夫が必要となる。
デリバリー方式	市が作成する献立に基づき、既存の民間工場で調理した弁当箱（ランチボックス）形式の給食を配送する方式	温かいまま、安全に配送する工夫が必要となる。食事の量が固定されるため、生徒ごとの対応が困難で、食缶方式に比べると残食が生じやすい。

推進会議の検討結果（平成30年10月31日）

「自校方式」の実現が困難な中、

「安全・安心でおいしい、生徒が喜ぶ学校給食」を早期に実現するためには、

高い水準の衛生管理やアレルギー対応が可能で、財政面でも効率的な投資効果が期待できる「センター方式」とすることが、

本市にとって最も効果的かつ現実的な方策と考えます。

推進会議からの要望事項（平成30年10月31日）

- 1 生徒が喜ぶ秦野らしい給食の実現
- 2 食育の推進
- 3 生徒・教職員の負担軽減
- 4 財政負担を考慮した効果的・効率的な事業執行
- 5 中・長期的視点に立った自校方式の検討

中学校給食の概要

- | | | |
|---|------|---------------------------------------|
| 1 | 開始時期 | 令和3年（2021年）12月 |
| 2 | 給食方式 | 全員給食 |
| 3 | 配膳方式 | 食器・食缶方式 |
| 4 | 提供方式 | センター方式（共同調理場方式） |
| 5 | 配送方法 | 各中学校にエレベーターを建設し、
給食配送用コンテナによる配送を実施 |

受注者の決定

令和元年7月 「秦野市学校給食施設整備・運営事業実施方針」の公表

9月 参加申込 2グループ

10月 プレゼンテーション実施



ハーベストネクストグループ 786点

審査結果（合計最高得点1,000点）

ハーベストネクストグループからの提案事項

「秦野らしさ」を創造します。

共 育

地域振興 地域貢献

秦野市と『共』に
「はだのブランド」を
『育』みます。

共 営

事業の安定性と確実性

秦野市と『共』に
効果的・効率的な事業を運『営』します。

共 食

安全・安心の給食提供

秦野市と『共』に
生徒が喜ぶ給『食』を実現します。

ハーベストネクストグループからの主な提案事項



手作り給食への対応

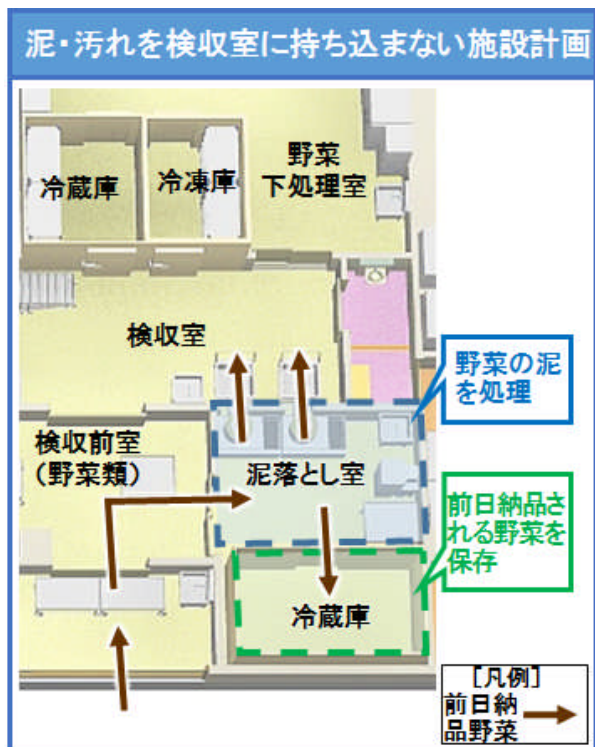


地元食材の活用

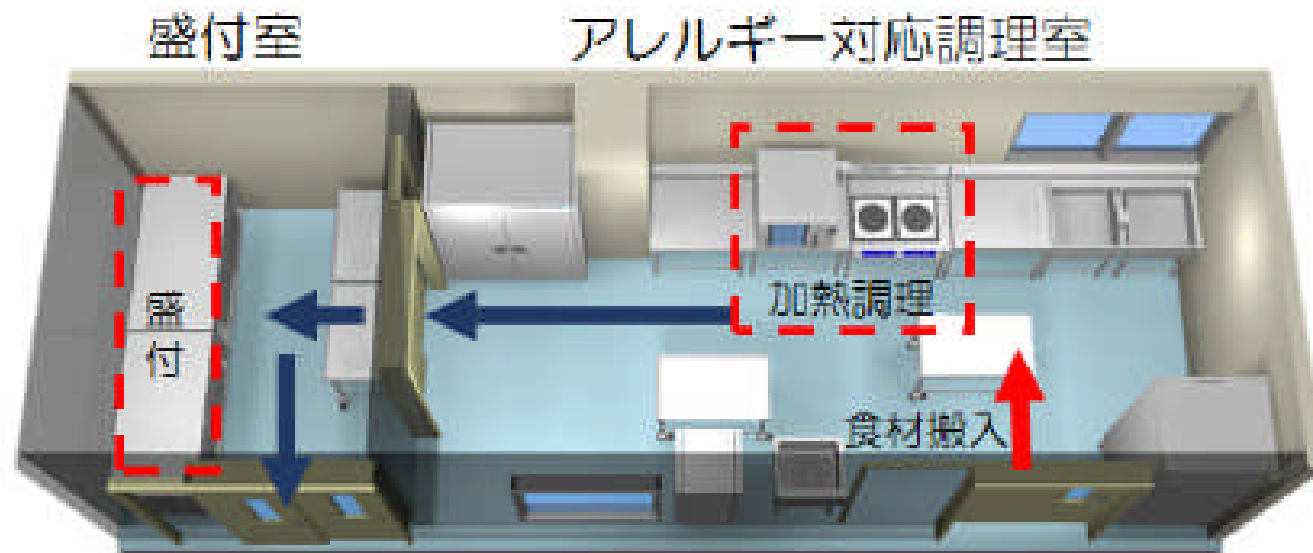
秦野市の食材	手作り献立
 さくら塩付け	 さくら蒸しパン
 お茶	 お茶じゃこご飯
 地場野菜	 地場産ソース

秦野らしい献立の開発

ハーベストネクストグループからの主な提案事項



施設整備の充実

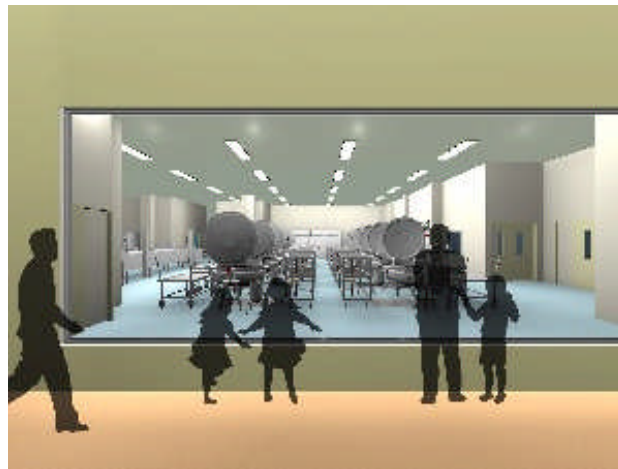


食物アレルギー対応の専用調理室の設置

ハーベストネクストグループからの主な提案事項



野菜下処理室



煮炊き調理室



会議・研修室

学校給食センターの完成イメージ



事業スケジュール

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
① 推進会議による調査・検討（4月～10月）	② 基本計画の公表（4月） ③ 受注者の選定（10月）		
	④ 基礎調査等の実施（1月～）	⑤ 施設の整備（設計・工事）	⑥ 施設の完成（9月） ⑦ 完全給食の開始（12月）

生徒や教職員の負担に配慮した施設整備

配膳に係る生徒・教職員の負担の軽減と配膳時間の短縮を図るため、各校にコンテナ配送用エレベーターを建設します。

2019年度	2020年度	2021年度
① 北中、渋沢中、南が丘中、鶴巻中		
★設計 → ★建設		
② 南中、東中、大根中、西中		
★設計 → ★建設		



エレベーター設置イメージ

秦野らしい中学校給食の実現に向けて

- 栄養バランスを考えた 献立の作成
- 生徒・教職員の負担も考慮した 給食時間の検討
- 学校給食を通じた 食育の推進
- 食育の視点を生かした 地産地消の推進

市民・大学・行政の連携による食育の推進を目指して



をもっと楽しもう！

はだの “^ごGO ^{はん}FUN” プロジェクト（仮称）



東海大学

人材の派遣
献立開発等の技術支援



「実践の場」の提供
インターンシップの受入



秦野市

活動の支援
講習会等の開催



事業への参加・協力
広報活動の協力



市P連